

実務経歴書

【記入注意】 この実務経歴書は勤務先（自営業を含む。）毎に作成し、今までの建築に関する実務の経歴について受験又は登録に必要な業務内容を年代順に記入してください。なお、記載内容の記入不備や疑義が生じた場合、再提出や追加書類の提出を求められることになり、登録が遅れる場合があります。また、虚偽の実務経歴を記載した場合、建築士法上の措置や受験又は登録が認められない場合もあります。

私は、(二級・木造)建築士の免許を受けたいので、建築実務の経歴を次のとおり記載し、併せて、第三者がこの実務経歴書の内容が事実と相違しないことを確認したことを証する実務経歴証明書を提出します。私は、次の事項が真実かつ正確であることを誓います。

① 令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

② 氏名 **建築一夫**

熊本県指定登録機関
公益社団法人 熊本県建築士会 様

勤務先等				
③ 勤務先(部課名まで)	④ 所在地(番地まで)	⑤ 在職期間の合計		
		年月～年月	年月数	
株式会社〇〇建築設計事務所 〇〇部〇〇課	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	H〇年〇月～R〇年〇月	〇年〇月	
⑥ 在職期間		⑦ 地位職名	⑧ 建築実務の内容(建築士法施行規則第1条の2)	
年月～年月	年月数			
H〇年〇月～H〇年〇月	〇年〇月	技師	②建築物の工事監理に関する実務	
H〇年〇月～R〇年〇月	〇年〇月	技師・主任	①建築物の設計に関する実務	
年 月～年 月	年 月			
◆ 建築実務の詳細		⑮ 建築実務経験期間の合計		
		〇年 〇月		
⑨ 対象物件の名称等	⑩ 対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑪ 年月～年月	⑫ 建築実務の割合	⑬ 年月数
S邸	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	〇年〇月～〇年〇月	〇%	〇年 〇月
⑭ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務等)				
〔2C-01〕 専用住宅(木造2階建て、延べ面積140㎡)の新築工事において、工事監理補助を担当した。				
⑨ 対象物件の名称等	⑩ 対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑪ 年月～年月	⑫ 建築実務の割合	⑬ 年月数
□□店舗	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	〇年〇月～〇年〇月	〇%	〇年 〇月
⑭ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務等)				
〔1C-01〕 店舗(木造2階建て、延べ面積150㎡)の基本、実施設計業務において、基本設計にて平面、立面、断面計画等の作成補助を、実施設計にて一般図(平面、立面、断面)の作成補助を担当した。				
⑨ 対象物件の名称等	⑩ 対象物件の所在地	建築実務経験期間		
		⑪ 年月～年月	⑫ 建築実務の割合	⑬ 年月数
△△店舗	〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地	〇年〇月～〇年〇月	〇%	〇年 〇月
⑭ 実務経験の対象となる業務の内容(できるだけ具体的に 用途・構造・規模・担当業務等)				
〔1C-02〕 事務所(鉄骨造2階建て、延べ面積200㎡)の基本設計業務において、関係法令のチェックや各種インフラ整理、必要諸室・規模の検討等の設計と条件の整理を担当した。				
※経由機関記載欄		※登録機関記載欄		

※ご記入前に**【記入注意】**を必ずご確認の上、作成ください。

- ① 申請年月日(提出日)を和暦で記入ください。
- ② 住民票上の氏名を正確にご記入ください。
- ③ 建築実務を行った勤務先の名称、部課名(ある場合)まで正確にご記入ください。
- ④ 都道府県から番地、ビル名等まで正確にご記入ください。
- ⑤ 「③勤務先」における入社から免許申請時までの在職期間(※建築実務経験期間ではなく、入社してからの在職期間)とその年月数を和暦(年号はアルファベット)でご記入ください。
- ⑥ ⑥の在職期間は「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った期間とその年月数を和暦(年号はアルファベット)でご記入ください。
- ⑦ 「⑧建築実務の内容」で記入する建築実務を行った際の地位職名をご記入ください。地位職名がない場合は、「—(ダッシュ)」をご記入ください。
- ⑧ 「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示リスト」内における対象実務の例示を選択、ご記入ください。

◆ 建築実務の詳細は「⑥～⑧」に記入した内訳を具体的にご記入ください。年代順に記入した「⑥の在職期間(建築実務を行った期間)」を業務の内容別(例示リストのコード番号別)にご記入ください。また、欄が足りない場合はコピーして作成ください。

- ⑨ 物件の名称等を具体的にご記入ください。建築実務が物件名で示せない場合は、行った建築実務の内容を簡潔にご記入ください。なお、業務上の秘密保持や個人情報保護の観点により具体の物件名称を記入できない場合は、イニシャル等を用いてご記入ください。(例:佐藤邸 ⇒ S邸)
- ⑩ 都道府県から正確にご記入ください。また、所在地が示せない建築実務である場合は「—(ダッシュ)」をご記入ください。
- ⑪ 当該建築実務を行った期間を和暦(年号はアルファベット)でご記入ください。
- ⑫ 「⑪建築実務経験期間」に、建築実務の対象となる業務を行った割合をご記入ください。
- ⑬ 当該建築実務を行った期間の年月数をご記入ください。
- ⑭ []内に「建築士資格に係る実務経験の対象実務の例示コード表」に対応したコード番号をご記入ください。また、用途・構造・規模等、担当した業務内容を具体的にご記入ください。
- ⑮ 「⑬年月数」で記入した全ての年月数を合計してご記入ください。また、⑮の合計年月欄と⑥の年月数欄の合計は原則一致となります。

【記入例】 上記の実務を行った株式会社〇〇建築設計事務所は、平成〇年〇月に倒産した。

備考 1 「(二級・木造)」とある部分は、該当するものを○で囲んでください。

【会社が倒産している場合】

会社が倒産している場合でも、実務経歴書の提出は必須です。余白部分に倒産した旨をご記入ください。※倒産した日付が不明の場合は、日付の記入は不要となります。